



7月生活目標：健康・安全に気をつけよう

～ひかり～

令和5年7月18日 文責：校長 徳弘

5年生 日本の主食“米づくり”を問題解決学習：社会科授業研究会

本校は、令和3年度から、中村中学校と共に高知県教育委員会『高知の授業の未来を創る』推進プロジェクトにおける実践研究協働校事業」の指定校（3年間）となり、学習指導要領の趣旨や内容に沿った授業づくりの研究実践に取り組んでいます。

令和3年度の国語科と算数科、令和4年度の体育科と理科に続いて、最終年度となる今年度前期は、社会科〔5年2組：伊与田紗代教諭〕で、『わたしはこう考える！これからの日本の農業～日本人の主食 米づくりを通して～』という単元を展開しました。消費量も生産量も減少傾向にある日本の主食「米づくり」を取り上げ、販売者（JA高知はた）や行政（四万十市農林水産課）のご指導をいただきながら、生産者（しまんと農法米を作っている農家）の方も招へいし、「米をもっと買って、たくさん食べて欲しい！」という販売者・生産者の願いを実現するようなチラシを作ることを学習のゴールにしました。米づくりの工夫や苦勞、生産者から消費者へ米が届けられる流れ、米の生産を持続発展させる知恵や工夫などについて、課題を解決しながら社会科における見方・考え方を働かせて“主体的・対話的で深い学び”を実現する授業を、本校の教員及び中村中学校社会科部会の先生方と共に追求し、子ども達は学びを深めました。5年1組も、松岡 舞教諭が先行して授業実践する形で取り組みを進めました。

その一端を公開する授業研究会を、6月22日（木）に開きました。授業では、これまで学んできた日本の米づくりの現状や課題に着目し、生産に関わる人々の工夫や努力を踏まえて、米を販売するチラシに載せる内容について、思考・表現し合う学習活動が展開されました。子ども達は、心を込めて美味しい米を工夫して作る生産者の立場、美味しい米を選んで手に入れたい消費者の立場、そして、生産者と消費者の双方の思いをつなぐ役割を持つ販売者の立場を踏まえながら、いかにして消費者に米を買ってたくさん食べてもらえるようなチラシの内容にするか、これまで身に付けてきた社会科の見方・考え方を生かしながら主体的に自分の考えを持ち、班で対話をしながら協働してリストアップする学習の中で、学びを深めていました。



まずは自分の考えを整理



班で話し合ったチラシに載せる3つは…



堂々と発表！



平和の折り鶴づくり～平和な未来を願って～

6月13日(火) 修学旅行から帰った6年生が中心となった全校平和折り鶴朝会から始まった今年の平和を願う折り鶴づくりの取組。まず、3年分の中村小学校のみんなの平和への願いが詰まった千羽鶴を広島平和記念公園の特設ブースに納めた事、資料館や公園、講師から学んだ事・考えた事を6年生が堂々と発表しました。その後、ファミリー班に分かれて教え合い助け合いながら、平和への願いや祈りを込めて、一羽一羽折りました。その折り鶴を来年度の最上級生5年生が束ねあげました。

未来へはばたけ平和のつる
未来に届け！幸せの千羽鶴

6月27日(火)の平和折り鶴朝会で、今度は5年生が中心となって全校児童に披露、「平和七夕祭」(天神橋アーケード)に出品。この取組は来年の修学旅行につながります。



←6月13日(火)↓



6月27日(火)



ゲストティーチャー＆ボランティアの方々のご指導を受けて



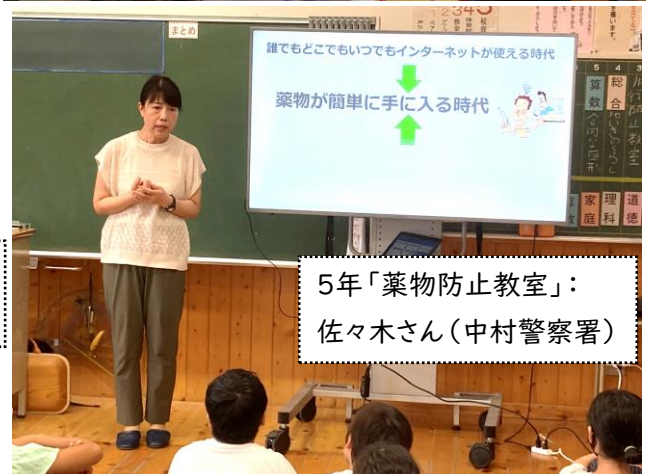
5年社会「米づくり」:
しまんと農法米の生産者



3年総合「四万十川アピール大作戦」:黒澤さん



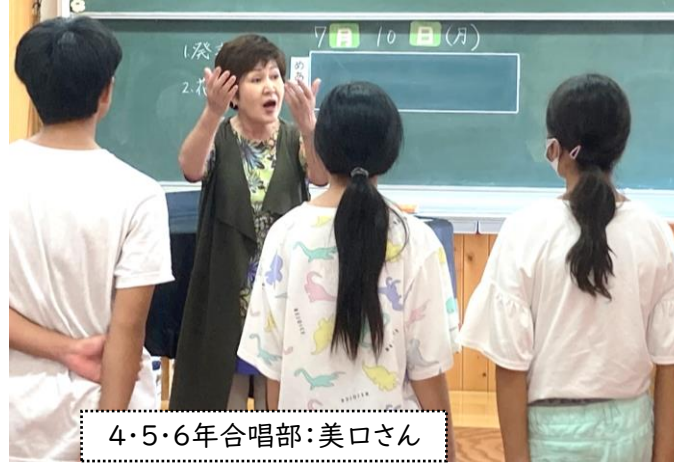
2年「非行防止教室」:
小谷さん(中村警察署)



5年「薬物防止教室」:
佐々木さん(中村警察署)



1・2・3・4年体育「水泳指導」:猪谷さん



4・5・6年合唱部:美口さん



6年総合「小京都中村タウンプロジェクト」:四万十玉姫の会の皆さん



6年社会「租税教室」:山崎さん



5年総合「仏手柑」:市農林水産課



4年社会「水道」:
市役所上下水道課

入賞おめでとう

土佐幡多の会 デザイン募集入賞者:土佐幡多の会(関東)

- 優秀●6年…岡本 林
- *5年生時(2月)に出品した作品です。

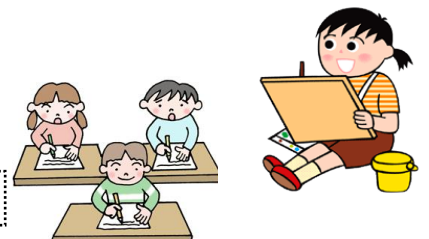
★受賞作品は、関東在住の幡多(幡多6市町村に四万十町を加えた地域)出身者の会の会報誌に掲載されました。

夏休み学習旅行招待「図画・書写・作文の部」:高知新聞社

- [図画] ●入賞●6年…中平 戸田
- 佳作●5年…乾 ハシミ
- 6年…雨森 栗本 西澤
- 長崎 林 松本
- [作文] ●入賞●6年…西澤
- 佳作●6年…岡田 戸田

★「入賞」の6年生3名は、2泊3日の学習旅行(今年が高知県内)に招待されます。

*本校が第2次審査幡多会場だったこともあり、多数の5・6年生が挑戦しました。



作文の部「入賞」受賞作品 課題：心に残った出会い

四万十市立中村小学校 6年 西澤

この出来事を感じたのは、三年前の事だった。休みの日家族で川に行ったり、山に登ったり、自然に親しむ目的でお出かけをした。川では、水が流れる音が風の音と交じってきもちの良い音がし、山では小鳥のなき声とそよ風が体中にすき通る感覚があり、とても気持ちのよいものだった。家族との会話では、「川だけだとわからないけど川とそよ風や山だけじゃなく小鳥のなき声がどうじに聞けるといい気持ちになるなあ」と両親が話していた。その会話を聞き私の心の中でなにかが引っかかる。それは二つのものがどうじに聞けるといい気持ちになるという言葉だった。そもそも自然というのは山、川、海、小鳥のなき声これらが一つ一つ聞けるから自然というのは心がおちついていいんじゃないかとわたしは考えていた。

しかし、わたしは、ふと思ったことがあった。それは、音楽の時間楽器を使うときのこと。例えばバイオリンも一つだったらただ音を聞いただけだけど、バイオリンにピアノも入ったら両方の音が聞き分けられるし、いろんな楽器が入っていた方がおもしろいことに気がついた。

この経験は、両親がいていた会話とつながっているのかなと感じた。

ところでまず、自然ってなにかをそんなに深く考えたことがなく、自然について興味はなかった。でも今は、心に残っている出会いとして、わたしの心を大きくうごかした。それは、この家族と行った自然と親しむことで自然は人の心をおちつかせるものという自然の良さを知ったからだ。もしわたしが自然はいいものということ、自然に出会えてなかったら、興味もたず、心がおちつく場所がみつかっていないかもしれない。他にもこのようなすばらしい自分のいやすい場所がこのわたしたちがすむ高知県、四万十市にはあるのかもしれない。

わたしは、こんなに心に残る場所をおしえてくれた自然になにか一つでもわたしたちの力をかし、自然の良さを多くの人に伝え、自然を守りたいと感じた。五年生になり、学校の学習の時間に自然のことを一生けん命調べ実際に行き、調べたことを、ポスターに書き全校にひろめた。ここにある思いには、もちろん自然の良さはこういうものがあるということを伝えたが、そこには、自然を大切にしてほしいという思いがあった。両親の会話から感じとったことと同じようになにか一つでもだめになると自然の良さを伝えられないとあらためて感じたからだ。

わたしが心に残った出会いがまさか、自然になるとはおもってもいなかったけど、家族と自然に親しむ中であった出来事から全てわたしには、すごく心に残った事だった。

わたしにとっての本当の出会いとは、自然はすばらしいものだということだった。このことからわたしは、やっぱり自然が好きだ。

〔講評〕 *全作品に係る講評でしたが、西澤さんの作品の素晴らしさにふれていました。

課題は「心に残った出会い」でした。友達との出会いを書いたものが多く、小学5、6年生にはどんな出会いがあるのだろうと考えさせる作品が少なかったことが残念でした。

入賞作品で自然の中で聞こえる音との出会いを書いた人がいました。どうして気持ち良く聞こえるのかを自分の言葉で説明しており、広い視野で書かれた文章は読み応えがありました。

2次審査では、2時間で1200文字を書きます。大人でも難しいことです。いきなり書き始めるのではなく、課題を見て何を書か十分に考える時間を取りましょう。最初に何を書いて、最後に何を書かなど「作文の設計図」を考えてから書き始めてみてはどうでしょうか。